

# 比較家族史学会 報 比較家族史 10 会

事務局 〒113 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学社会科学研究所 利谷研究室

## 比較家族史学会第一三回研究大会 プログラム

日時 昭和六三年六月一八日(土)・一九日(日)

場所 専修大学神田校舎(地図を参照)

テーマ 家父長制をめぐる諸問題

六月一八日午前一〇時開催

会長挨拶

永原 慶二 10:00

自由報告

・高群逸枝の純婚取婚構想が意志的誤謬であったことについて

栗原 弘(同志社大学) 10:15~10:45

・日本人コウホートの結婚・出産・死亡によるライフコース

渡辺吉利(人口研) 10:50~11:20

テーマ報告

・問題提起 鎌田 浩(専修大学) 11:25~11:45

・家裁判よりみた古代ローマの家父長制の側面

原田俊彦(早稲田大学) 11:45~12:15

・古代中国における家父長制の成立

堀 敏一(明治大学) 13:20~13:50

・アフリカにおける父権的家族と家父長制

小林伸浩(金沢大学) 14:00~14:30

・中世前期の家と家父長制との関連で

五味文彦(東京大学) 15:10~15:40

・近世農民の家と家父長制

藤井 勝(名古屋大学) 15:50~16:20

・労働組織としての家父長制家族―柳田国男と有賀喜左衛門におけるその把え方

岩本由輝(東北学院大学) 16:30~17:00

※ 報告終了後・懇親会

六月一九日午前一〇時開催

・イングランドにおける家父長制家族の変容をめぐって

栗原真人(香川大学) 10:00~10:30

・一八世紀プロイセンにおける「家父長制」について

石部雅亮(大阪市立大学) 10:40~11:10

・戦前日本の身上相談に見る「家父長制」と女性

金子幸子(国際キリスト教大) 11:20~11:50

・近代家族における家父長制的残痕

正岡寛司(早稲田大学) 12:00~12:30

・総会 13:30~

・シンポジウム「家父長制をめぐる諸問題」14:00~

第一三回研究大会運営委員会

鎌田浩(委員長)・永原慶二・住谷一彦・江守五

夫・長谷川善計

## 問題提起

鎌田 浩

一、今、なぜ「家父長制」を論ずるのか。

1. 現民法は父母・夫婦の平等を規定し、「家父長制」を明確に否定しているが、社会観念的には、今なお家父長制的家思想は依然として根強く存続しており、それは、出生率の激減がもたらした親子紐帯の緊密化と、年々華美になる七五三、結婚式等家族諸行事へくい込んできた商業主義によって、むしろ復古的状况にあるとさえいえることができる。

2. 洋の東西を問わず、前近代の永きに亘って支配的な家族支配の型として存続してきた、そしてそれ故に現代家族の上からも容易にはその斑痕を消すことのできない「家父長制」について、われわれは、それぞれの「家父長制」の成立諸条件を解明し、その機能を検討し、「家父長制」諸形態間の関係を科学的に認識し整理することが、現在の比較家族史研究における最重要課題の一つであると考える。

二、「家父長制」研究における基本的問題点

1. 「家父長制」概念についての共通理解。

いままで、ともすればあまりにも安易に「家父長制的」という言葉が濫用されてきたことはなかったろうか。ここで一度厳密に「家父長制」概念それ自体について検討し、共通の理解を確立する必要がある。①「家父長制」は発生的には父の権威を基盤として成立した支配体制であるが、父以外の者が家長の場合でも擬制作用により「家父長制」の存在が確認できる。その場

合、「家父長制」と「家長制」はどう区別されるのか。②親権・夫権・主人権など家族内の個別的権力関係と「家父長制」の関係をどう理解するか。③隠居制度や婚姻形態との関連で、「家父長制」の発現形態はどのように異なるか、等の諸問題が検討されなければならない。

2. 家業あるいは社会階層と家秩序のあり方。遊牧民・農民・漁民・商人・賃労働者その他の家業別にみた家支配の諸形態、さらには貴族・武士・地主・小作人その他の社会階層別にみた諸形態を点検し、それらの家秩序がいかなる条件に規定されて形成されているのか、そしてそれらは「家父長制」概念にどの程度適合的なのかを検討されなければならない。

3. 国家・村落等の地域団体、あるいは宗教的団体や企業体その他の団体の内部秩序に家父長制的家族主義が導入されたとき、それはどのような効果を発揮したのか、またそれらの団体の性格をどう理解するのか等の問題も、狭い家族史研究の枠を超えて「家父長制」の担ったイデオロギー的側面の研究として重要である。

### 研究大会に関連する連絡事項

1. 懇親会について

懇親会は、研究大会初日(一八日)報告終了後、研究大会会場(専修大学神田校舎)の一五階ホールで開きます。費用は四〇〇〇円を予定しています。

この懇親会は、シリーズ家族史の発刊にあた

ってお世話いただいた三省堂の今井克樹氏・榎木寿男氏を招待して、シリーズ家族史の刊行報告会を兼ねたいと考えております。多数のご参加をお願い致します。

2. 昼食について

会場近辺はオフィス街でありますので、休日にはレストラン等休業が多くなります。弁当を用意致しますので、ご利用いただければと存じます。

値段は一〇〇〇円を予定していただければと存じます。

3. 出欠のハガキについて

六月八日までにお出しく下さい。

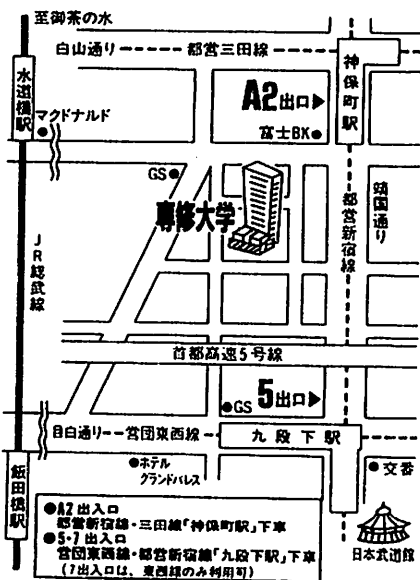
4. 研究大会会場における連絡先

専修大学神田校舎

郵便番号一〇一 東京都千代田区神田神保

町三一八

電話 〇三一二五六二二一



# 事務局からのお知らせ

## 1. シリーズ 家族史の申し込みについて

① シリーズ 家族史の第1巻・第2巻の予約に關しましてはご協力をいただきありがとうございます。シリーズ家族史は、第1期として7冊を来年十一月までに刊行することになりました。つきましては、この第1期分7冊につきまして、まとめて予約注文を受け付けたいと思います。ハガキを同封致しましたのでお申し込みただければと存じます。現在、刊行の予定は次のようになっております。

・第3巻 氏1族の名・家の名・人の名

・第4巻 家と女性・財産・労働・祭祀

・第5巻 夫と妻の情景・離婚(仮題)

・第6巻 女性と財産(仮題)

・第7巻 へらいと家族(仮題)

原稿の集まり具合により、刊行の順番・刊行時期に変更が生じてくる場合もあります。原則として、原稿が集まったものから順番に三ヶ月に一冊の割合で刊行する予定です。

② 販売価格は定価の2割引き・送料は三省堂負担ということをお願い致します。今回から残念ながら、2割5分引きにはなりません。また、会員がセミなどでテキストとして用いる場合にも、同様の取り扱いを致しますので、お申し込みただければと存じます。申し込み先は次の通りです。

郵便番号一〇一

東京都千代田区三崎町二一三二一四

三省堂編集部「シリーズ家族史」係

(担当 欄木寿男編集長)

電話 〇三一二三〇一九四六二

③ このシリーズ家族史の刊行が成功するかどうかは、今後の会の運営とも密接な関連があります。シリーズ家族史の第1期7冊の成功が、シリーズ家族史の第2期の刊行(第一三回研究大会以降の成果刊行)につながって参ります。つきましては、学生へのテキスト・参考文献としての御推奨および所属大学の図書館での購入など皆様のご高配を賜れば幸甚と存じます。

## 2. 「比較家族史研究」第3号の文献目録の作成について

① 現在編集が進められている「比較家族史研究」第3号(一〇月刊行予定)におきましても、文献目録を掲載する予定です。紀要など市販されていない文献につきましては、文献目録編集委員会でもなかなか把握することが困難な事情もありますので、誠に恐縮ですが、会員が昨年度発表されました家族に関する論文及び書籍につきましてお知らせ願えれば幸甚です。内容については、次の通りです。

1. 昭和六二年四月一日から昭和六三年三月三十一日までに発表された文献であること。
2. 家族をテーマとして書かれた文献であること。

3. 法学におきましては、純粹な法の解釈や判例批評は含みません。
4. 学生向けに書かれたテキストや隨筆は含みません。

② 文献につきましては、同封の山田昌弘氏宛(文献目録委員会宛)のハガキをご利用ください。また、そこには次の内容をお書きいただければと存じます。

1. 雑誌の場合 著者名・タイトル・雑誌名・巻、号・発表年月
2. その論文あるいは図書の内容がどの学問分野に属するか(分野につきましては、比較家族史研究第2号を参考にしてください。)
3. 締切は五月末日とさせていただきます。

## 3. 会費の納入について

昭和六三年度の会費の納入についてよろしくお願い致します。なお、昭和六二年度までの会費の未納者につきましては、明細を同封致しましたので、ご確認いただければと存じます。

## 幹事会 議事録

日時 昭和六十二年一月一四日(土)  
場所 日本福祉大学

## 1. 研究大会の運営について

① 研究大会を年1回とする案について

従来通り、年2回とする。但し、その年度の状況に応じて、柔軟に対応するものとする。  
理由 ・ 年1回とするとテーマの選定が難しくなること。

・ 地方部会が形成されていないので、会員に対して会への出席のチャンスを多くしておくべきである。

・ 東京で1回・その他の地域で1回と年2回開催することに意義がある。

② 役員の出選方法について

従来通りとする。

理由 ・ 現状でも役員が交代しており、別に支障がないこと。

・ 選挙をすると、費用がかさむこと。  
・ 個々人の事情が考慮できないこと。  
・ 各分野別にどのように選出するか問題が多くあり、かえって運営上混乱が予想されること。

## 2. 学術会議への登録について

① 推薦人の指名について

・ だれに投票するかは推薦人に任せる。  
・ 推薦人の推薦は、第1部は永原慶二会長・

第2部は黒木三郎会員に一任する。

後日、推薦人は次の通り決まった。

第1部 瀬野精一郎会員

第2部 江守五夫会員

② 会員の候補者

・ 候補者を出すかどうかは、推薦を行う人たちに任せる。

・ 会員の候補者を出すことは十分に考えられる。

後日、第2部の会員の候補者として、利谷信義副会長を推薦した。

## 3. 第一三回研究大会について

① 運営委員について

別紙の通り

② 日程

六月第二週 ただし専修大学の事情を考慮して決める。

## 4. 今後の研究大会について

① 第一四回研究大会

・ 京都で開催する。

一月第二週をめぐりとして、橘女子大学(田端泰子会員)で開催する予定

詳細については、第一三回研究大会会場にて発表の予定

② 第一五回研究大会

・ 大正大学(藤井正雄会員)で開催・テーマは「墓と家族」(仮題)・日程は昭和六四年六月第二週を予定

③ 第一六回研究大会

・ 茨城大学(竹田且会員)で開催の予定、テーマ・日程は未定

## 5. シリーズ家族史についての報告

・ この研究大会には間に合わなかったが、シリーズ家族史は近いうちに刊行の予定

・ 第一二回研究大会(老人問題)の成果についても、シリーズ家族史の一冊として刊行の予定

## 6. 総会の議長

・ 竹田且会員に依頼する。

総会 議事録

日時 昭和六十二年一月一五日(日)  
場所 日本福祉大学  
議長 竹田 且会員

1. 研究大会について

幹事会案……………承認

2. 役員の選出方法について

幹事会案……………承認

3. 日本学術会議登録について

幹事会案……………承認

推薦人……………第一部 瀬野精一郎氏・第二部 江守五夫氏 ともに承認  
候補者について……………幹事会案 承認

4. 万福寺保存運動について(高木 侃会員より提案)

要望書の提出……………承認

5. 比較家族史研究第3号の編集について

編集委員を、北條 浩会員に願う。

6. 研究大会についての報告事項

・第一三回研究大会についての報告  
・第一四・一五・一六回研究大会についての報告……………幹事会議題参照

幹事会 議事録

日時 昭和六三年一月二五日  
場所 専修大学

1. 新入会員の承認

・別紙参照……………新入会員名簿

2. シリーズ家族史について

①第1巻・第2巻の発行部数と定価

・発行部数 三〇〇〇部  
・定価 二四〇〇円  
・印税 一〇パーセント

②成果刊行についての覚書

・別紙参照……………比較家族史学会シンポジウム成果刊行(シリーズ家族史)に関する覚書 参照

③印税の配分

・印税のうち6割を執筆者へ、残り4割は学会へ配分する。

・学会は一定額を編集費用(事務局費用を含む)として編者に渡すものとする。

・文献目録の作成は執筆者に対する配分に含まれる。

・前書き・後書きについては、編集費用の中に含まれる。

・コラムは、五〇〇〇円見当(全体の〇、〇七パーセント)、コメントは七〇〇〇円見当(全体の〇、一パーセント)とする。これらは、共に執筆者への配分の中に含まれる。

る。

④第3巻以降の編者(覚書に従って決定)

第3巻 氏一族の名・家の名・人の名

編者 黒木三郎・瀬野精一郎・村武精一

第4巻 家と女性・財産・労働・祭祀

編者 石川栄吉・峰岸純夫・三木妙子

第5巻 離婚(仮題)

編者 有地 享・志垣寿夫・老川 寛

第6巻 女性と財産(仮題)

編者 稲本洋之助・田中真砂子・飯沼賢司

第7巻 へおいの比較家族史

編者 利谷信義・清水浩昭・大藤 修

3. 比較家族史研究第3号について

特集……………墓の問題

原稿の締切……………六月初旬予定

5. 第一四回研究大会の日程

一二月第二週か第四週が有力

比較家族史シンポジウム成果刊行  
（『シリーズ 家族史』）に関する覚書

- 一 大会シンポジウムの成果を刊行するか否か、その刊行時期をいつにするかについては、幹事会が大会運営委員会と協議の上決定し、三省堂と交渉する。
- 二 幹事会と三省堂の交渉については江守五夫・利谷信義の両名があたるものとする。ただし、三省堂は編集に関する希望を幹事会にたいして述べるができるものとする。
- 三 各巻の印税の四割を学会が留保し、その一部を編集費にあてるものとする。編集費は、編集事務局費を含むものとし、その額は別に定めるものとする。
- 四 編集委員は三名とし、うち一名を責任編集委員とする。
- 五 各巻編集委員は、なるべく専門分野が重ならないように配慮し、かつ年輩等を考慮するものとする。また、同一人物が重ねて編者になることをなるべく避けるものとする。
- 六 各巻には、編集に協力をする事務局をおくものとする。編集事務局の氏名および活動はあとがき等において明記するものとする。
- 七 責任編集委員は、編集案（たとえば目次）が決定したときにはすみやかに幹事会に報告するものとする。



住所変更・所属変更

柳谷 慶子

林 研三

喜山 朝彦

飯沼 賢司

所属変更 大分県宇佐風土記の丘記念民俗資料館

西脇 康

青島 敏

所属変更 愛知教育大学

丸山 茂

柴田 敏夫

所属変更 大東文化大学

(以上, 順不同)

## 新 入 会 員

宮坂 靖子

お茶の水女子大(院生)  
家族社会学・家族史

片多 順

福岡大学  
文化人類学・老人学

坂本 一光

光陵女子短大  
文化人類学

野村 明代

お茶の水女子大(院生)  
家族社会学・思想史

大久保泰甫

名古屋大学  
フランス法制史・日本近代法史

佐藤 直樹

福岡県社会保育短期大学  
刑事法学

原田 俊彦

早稲田大学  
ローマ法

編 集 担 当    瀬野 精一郎 ・ 野村 育世